

組織名	株式会社あぐりー石 ^{いっこく} （代表：新田 義宣）	農業地域類型	平地農業地域
経営理念	地域を守るため、経営を維持発展させる	社員等	役員4名、常時雇用5名
経営面積	111.0ha（主食用米93ha、大豆27ha、大麦9ha、飼料用米5ha、WCS用稲3ha、米粉用米0.6ha、ネギ0.3ha）		



1. 経緯

昭和40年代、白山市福新町^{ふくしんまち}において、ほ場整備を契機に任意の集落営農組織（約20ha）を設立。

平成20年頃、代表の病気に加え中心的な組合員が亡くなったため、代表の息子（現代表）が組織の代表を引き継ぐ。

近隣の集落でも高齡化による担い手不足が進んでいたため、現代表は、知人の農業者（現専務）とともに石川地区（※）の受け皿組織になることを検討。※：福新町を含む10集落約300ha

農業経営においてスムーズな意思決定を行うには、機動性が高い株式会社が有効と判断し、平成22年4月、株式会社あぐりー石（約36ha）を設立。

地区内の機械利用組合（約30ha）が離農する際、市外の農業法人が借受を希望したが、現代表は「地域の農地は自分たちで守るから譲れない」という姿勢を示して地権者との合意形成を図り、すべての農地を引き受ける。

持続可能な組織にするため、平成27年、令和元年に後継者候補として代表の息子2名（30代）を雇用し、令和3年に役員に登用。現在、役員4名と令和4年、令和5年に雇用した社員5名を主力に規模拡大を進めている（令和5年には104haに増加）。

2. 課題と対策

借り受けている農地の中に未整備農地があるため作業効率が悪い。

地区内の農業法人と連携し、ICT機能を持つ農業用ブルドーザー等を活用して畦畔除去や均平化に取り組むとともに、地区内の簡易な農地整備を請け負う法人の設立を進めている。

3. 特徴的な取組や工夫していること

地区内約300haの農地を受け入れていくため大型機械を計画的に導入している。

汎用性の高い播種機を導入し、播種（水稻・大豆・大麦）作業の省力化や経費削減を図っている。

卸売業者の要望や価格動向を踏まえて多様な水稻の品種を生産し、市場に左右されない販売価格を維持している。

トラクターによる短時間の草刈りや自社所有の乾燥調製施設に遠隔監視・無人運転の機能を設置することで作業負担の軽減を図っている。

ほ場管理システムを導入し、1筆毎のデータを管理することで、施肥設計の見直しを行い生産コストの削減につなげている。

水稻の中干し期間の延長による温室効果ガス（メタンガス）削減に取り組み、「J-クレジット」として売却している。

田植え時期の苗箱洗いなど繁忙期の戦力として障がい者を継続的に雇用するため、福祉事務所と連携している。

新品種の作付けや省力化技術に関して、社員の意見を積極的に採用することで社内の雰囲気をも良くするとともに、繁忙期以外は週休2日、残業無しにして、楽しい会社のイメージをPRし、新たな雇用の確保に努めている。

4. 今後の目標

法人設立から概ね10年で経営面積約100haを達成しており、次の10年で約200ha、その次の10年で約300haに規模拡大することを目指している。



株式会社あぐりー石の社屋

地域農業を牽引する新田代表

積極的な経営陣

多様な作物を迅速に効率よく収穫するコンバイン

収穫期間の延長や需要に応じた品種導入に対応する自社の乾燥調製施設

適正施肥により生産コストを削減